

SRIMfit インストールガイド (1) ～手順書～

Update Log :

2017.03/24 ver.2.12 管理者権限 あり・なし に場合分け。

目次

* SRIMfit ファイルリスト

* 方法1： 管理者権限をお持ちの場合（オススメ）

- SRIMfit を [MS-Office システムAddIn フォルダー](#) へインストールします。

* 方法2： 管理者権限を持っていない場合

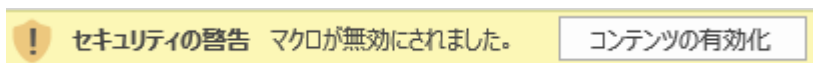
- SRIMfit を [ユーザーAddIn フォルダー](#) へインストールします。
- ご自分で作成・修正した SRIMfit 利用ブックを、他のPC、他の人へ配布する場合には注意が必要です。（リンクエラー問題が発生する場合があります）

* 更新履歴

（インストール作業について）

- SRIMfit には、Excel のマクロ付きファイル が多く含まれています。
詳しくは、《SRIMfit ファイルリスト》を参照。

- マクロ付きファイルを実行する時に、



と表示された時は、「有効化」をクリックして、進んでください。

- 「どうも人が作ったマクロ付は気持ちが悪い！」という方は、SRIMfit インストールガイド(2) をご参照ください。
ご自分で、マクロ記述などの内容を確認の上、インストールしてみてください。

SRIMfit ファイルリスト

SRIMfit_v2.12>tree /f

	_SRIMfit_インストールガイド.pdf	このファイル
	_SRIMfit_Install.xlsm	インストール用マクロ
	SRIMfit_eg1.xlsx	サンプルファイル
	SRIMfit_eg2.xlsx	
	_Read_me.txt	
	—xlam	インスト用AddInマクロモジュール
	SRIMfit.xlam	SRIMfit 本体
	E5Aexp.xlam	E5A実験者用
	—doc	その他の文書置き場
	01 SRIMfit_インストールガイド (1).pdf	このファイル
	02 SRIMfit_インストールガイド (2).pdf	
	21 SRIMfit_ユーザーマニュアル.pdf	
	—lib	
	—_xlsm	AddIn化してないマクロファイル
	SRIMfit.xlsm	SRIMfit 本体
	E5Aexp.xlsm	E5A実験者用
	—_SrimOutput	SRIM-2013 Outputファイル
	SrimOut_Ar40.xlsx	ビーム核種毎に xlsx形式で
	～など～	
	—E5A	E5A実験者用サンプルファイル
	E5A照射01_ビーム希望表.xlsx	
	～など～	

(注) Excel ファイル拡張子の分類について

- * .xlsm マクロ付きブック
- * .xlam .xlsm を AddInマクロ形式 で保存したもの
- * .xlsx マクロ無しブック SRIMfit 関数を呼出す記述あり

方法1： 管理者権限をお持ちの場合（オススメ）

Win10 Excel2013 の場合で説明します

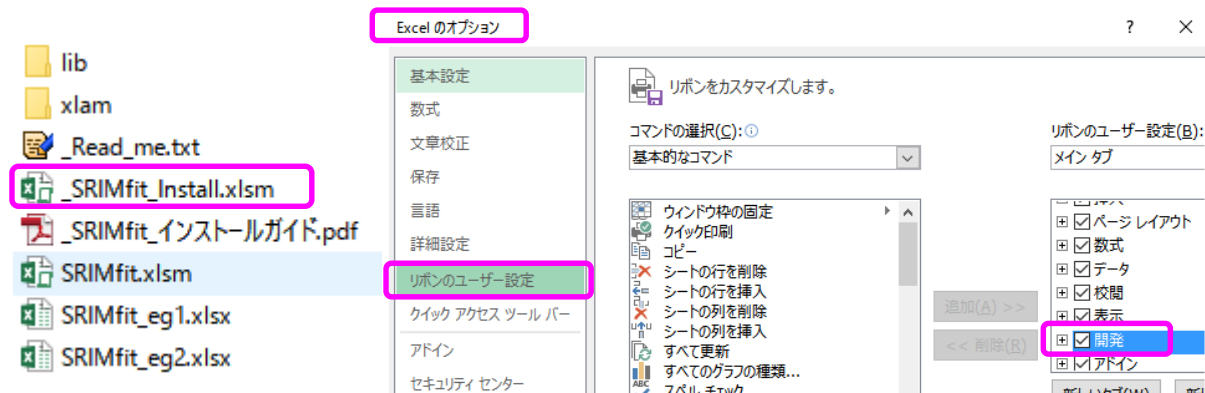
(1.1) Excelの準備

(1.1-1) _SRIMfit_Install.xlsm を開いて下さい。

このファイルにはマクロが記述されていますので、それが実行できるように次の準備をします。

(1.1-2) [開発]タブを表示させておく。

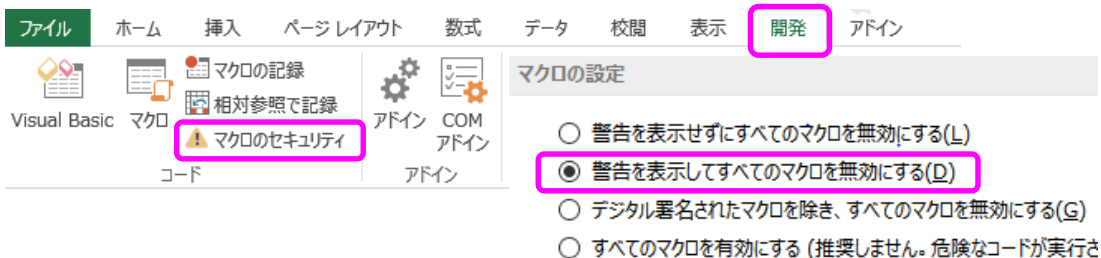
[ファイル:オプション:リボンのユーザー設定]で、メインタブの[開発]にチェックを入れます。



(1.1-3) マクロを実行できる環境にしておく

[開発]タブ が表示されるようになったことを確認します。 次に、

[開発:マクロのセキュリティ]で、「警告を表示しすべてのマクロを無効にする」をチェックします。



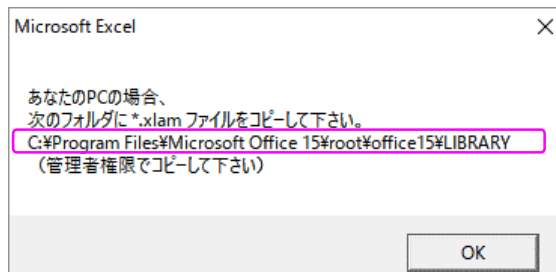
(1.2) SRIMfit.xlam (AddIn 形式 のマクロシート) を保存

今開いている _SRIMfit_Install.xlsm ブックの「管理者権限あり」シートにある操作手順に従って下さい。



(1.2-1) 「保存場所の表示」ボタンを押し、保存場所を表示させます。

お使いの WindowsPC と Excel のバージョンによって、マクロシートを保存する場所が異なります。その保存場所を表示させる為に、この簡単なマクロシートを作りました。



(1.2-2) これが、保存するフォルダの場所です。

ご自分のPCの場合は、この表示と異なる場合がありますので、ご注意ください。

(1.2-3) 指定された保存場所に、SRIMfit.xlam を保存します。

Windowsエクスプローラを開き、.xlam ファイルを、**管理者権限でコピー**します。

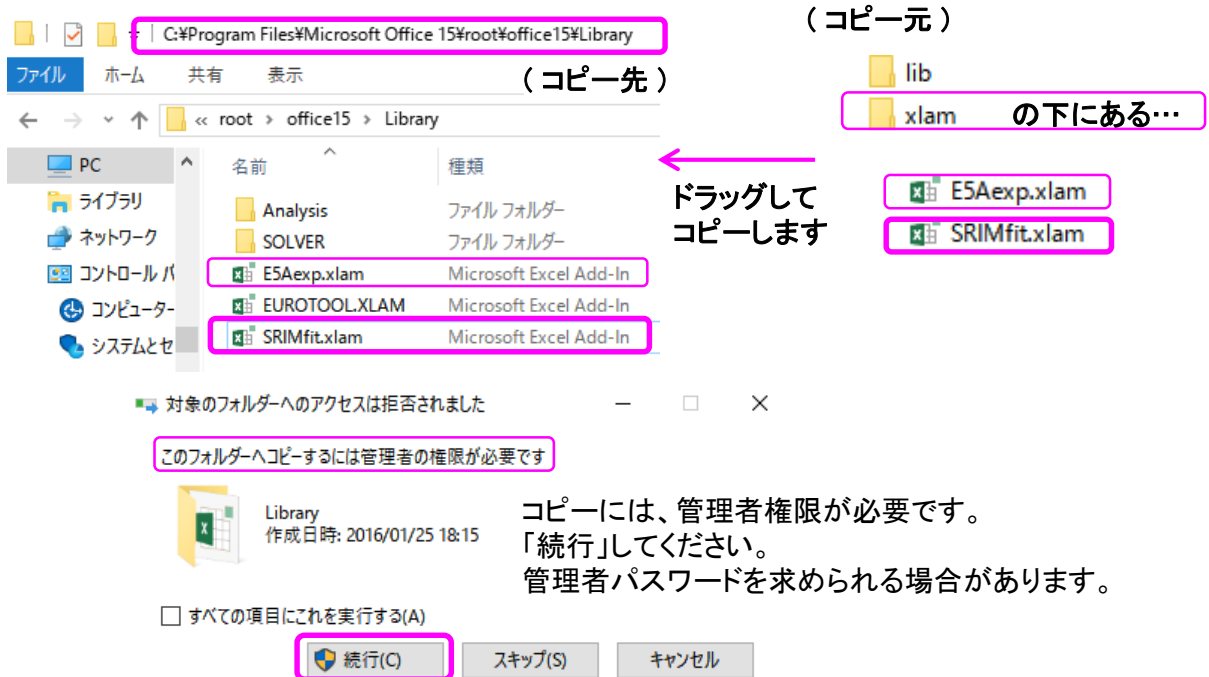
保存先はWindowsのシステムフォルダーですので、管理者パスワードを求められる場合があります。

注1) ここに保存するのは、SRIMfit.xlsm ではありません！

それを予めAddIn形式に変換してある SRIMfit.xlam です。お間違えなく！

注2) 標準の SRIMfit 以外に、理研E5A照射室用のエクセルファイルを使う予定の方は、

E5Aexp.xlam も一緒にコピーしておいて下さい。

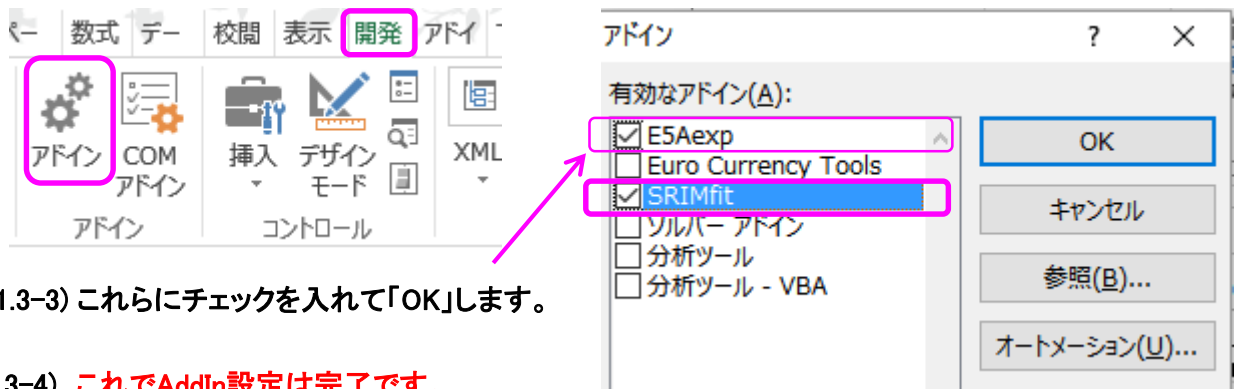


(1.3) AddIn として使うための設定

(1.3-1) 今開いている SRIMfit_Install.xlsm を 一旦終了し、もう1度開きます。

(1.3-2) AddInモジュールを追加します

[開発:アドイン]で、先ほど保存した .xlam ファイルを指定します。



(1.3-3) これらにチェックを入れて「OK」します。

(1.3-4) これでAddIn設定は完了です。

SRIMfit_Install.xlsm を閉じてください。

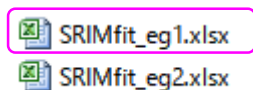
以降、エクセルを起動する時は、ここでチェックした AddInモジュールが自動的にロードされます。

尚、AddIn 使用をやめたい場合は、このチェックを外すだけでOKです。

(1.4) サンプルシートを開いてみてください

(1.4-1) サンプルシートを開く。

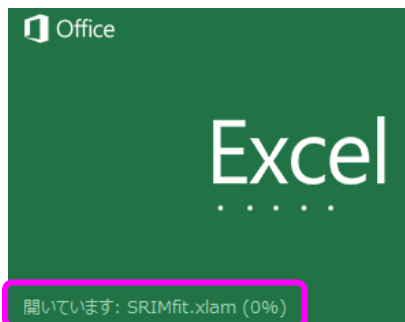
2種類のサンプルシート(SRIMfit 関数を用いた例題集) があります。



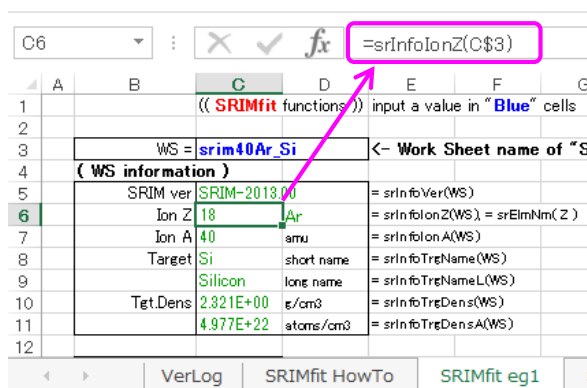
SRIMfit_eg1.xlsx は、
SRIMfit関数の基本的な使い方の説明です。
SRIMfit_eg2.xlsx は、
その応用例やデバッグ用シートです。

(1.4-2) AddIn が正しくインストールされているかを確認する

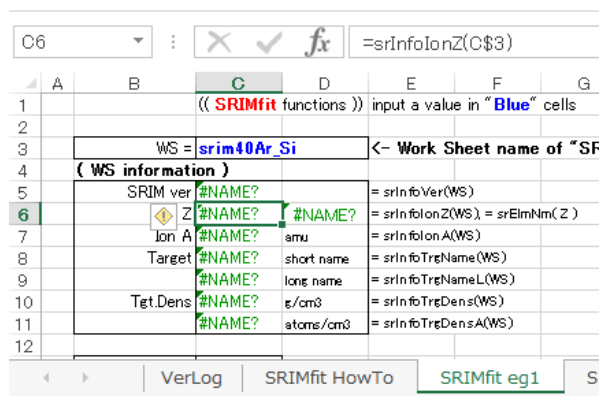
まず、SRIMfit_eg1.xlsx を開いてみてください。



エクセルの起動画面の下側に、
先ほどチェックを入れたAddIn モジュール
を読み込むメッセージが表示されます。
AddIn設定をしておくと、
このようにエクセル起動時に自動的に読み込まれます。



AddIn設定「成功」の表示



AddIn設定「失敗」の場合…

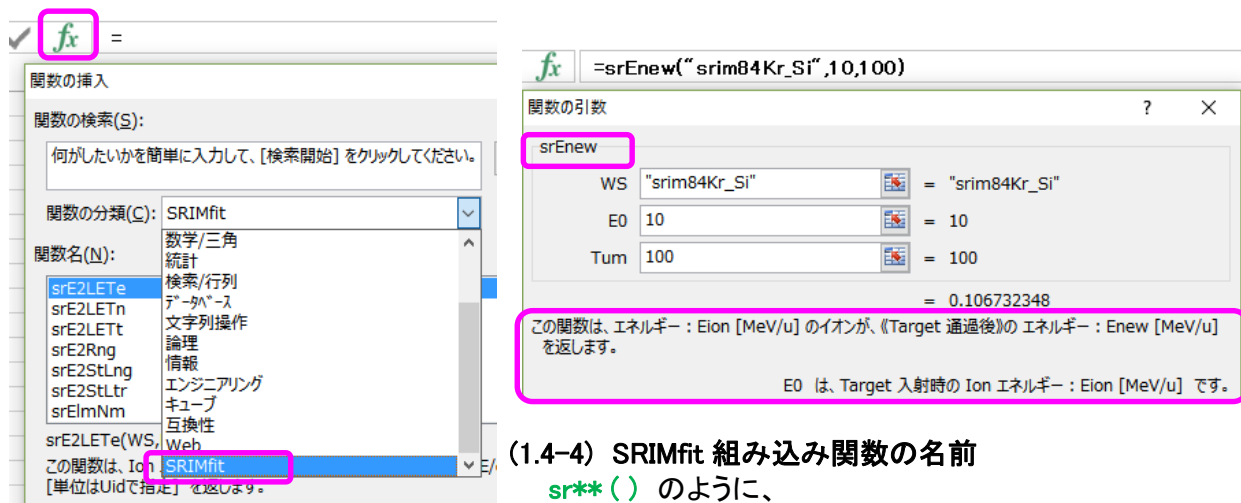
例えば、シート中の セル C6 には次のような関数式が記述してあります。

「= srInfoIonZ(C\$3)」 C3セルの内容を渡して SRIMfit関数: srInfoIonZ() を呼び出す
左上図のように結果が表示されていれば 今までの AddIn設定はOKです。

右上図のように関数呼び出しリンクエラー(#NAME?) が表示されている場合は、
AddIn設定が不完全ですので、もう1度(1)～(3)の手順を確認しなおしてください。

(1.4-3) 関数ヘルプメッセージの確認

例えば空白のセルに移動し、「**関数の挿入(fx)**」をクリックしてみてください。
「関数の分類」をクリックして表示されるリストの一番下に、SRIMfit が表示されます。
例えば srEnew 関数を選ぶと、その説明が表示されます。



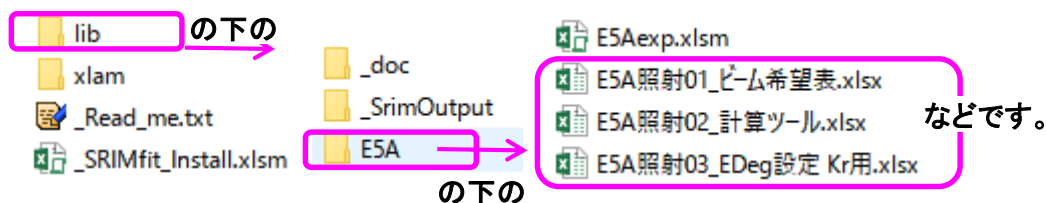
(1.4-4) SRIMfit 組み込み関数の名前

sr** () のように、
頭文字2文字が sr で始まる関数名に統一してあります。

(1.5) 使ってみる

(1.5-1) E5A照射用のサンプル

理研E5Aコースで大気中照射を行う為のサンプルブックを用意してあります。
これらのブックを参照して、SRIMfit関数の使い方を勉強してみてください。

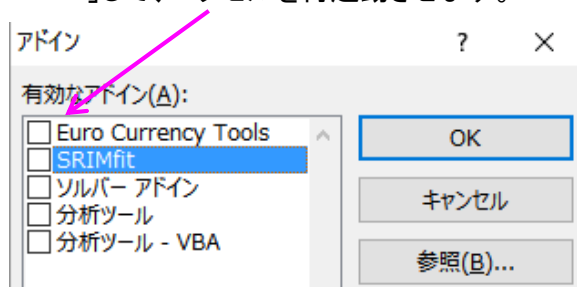


(1.6) アンインストール

アンインストールには、手動にて (1.3) と (1.2) の逆 の操作をしてください。

(1.6-1) AddIn を解除する

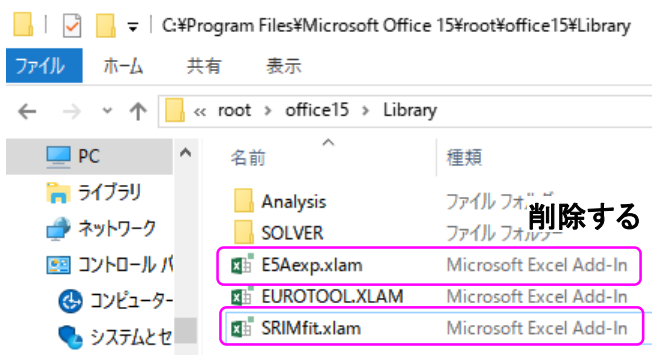
(1.3-3) の逆で、アドインのチェックを外してから、
「OK」して、エクセルを再起動させます。



チェックを外す

(1.6-2) xlam ファイルを解除する

(1.2-3) の逆で、Windowsシステムフォルダーに
置いた SRIMfit.xlam など削除します。



方法2: 管理者権限を持っていない場合

Win10 Excel2013 の場合で説明します

- SRIMfit を **ユーザーAddIn フォルダ** へインストールします。
このフォルダは、一般の Excel ユーザーが、個人的に作成した AddIn モジュールを保存する時に用いる場所です。
- 個人的な利用を想定していますので、ご自分で作成・修正した SRIMfit 利用ブックを、他のPC、他の人へ配布する場合には注意が必要です。
リンクエラー問題が発生する場合があります。
詳しくは、SRIMfit インストールガイド(2) をご参照ください。

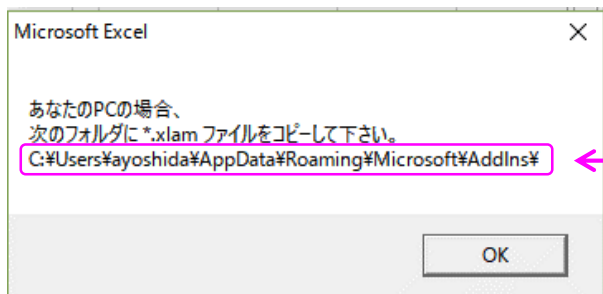
(2.1) Excelの準備 は、(1.1) と同じです。そちらを参照してください。

(2.2) SRIMfit.xlam (AddIn 形式 のマクロシート) を保存

今開いている SRIMfit_Install.xlsm ブックの **「管理者権限なし」**シートにある操作手順に従って下さい。



(2.2-1) 「保存場所の表示」ボタンを押し、保存場所を表示させます。



(2.2-2) これが、保存するフォルダの場所です。

(2.2-3) 指定された保存場所に、SRIMfit.xlam を保存します。 は、(1.2-3) と同じです。
但し、¥ユーザー名¥AppData)は、隠しファイルですので、このシートにある操作手順に従って下さい。

(2.3) AddIn として使うための設定 は、(1.3) と同じです。

ユーザーAddInフォルダに保存したAddInモジュールも、「有効なアドイン」一覧表に表示されます。
モジュールの参照先が気になる場合は、「参照」をクリックして、実際の場所を確認してください。

以降は、 (1.4) ～ (1.6) と同じです。そちらを参照してください。

更新履歴

ver. 2.11 からの変更点

マクロ関数モジュール SRIMfit.xlsm 及び .xlam には、変更はありません。
 ただ、AddIn マクロモジュールの保存場所を変更 することを推奨することにしました。

旧方式：ローミングアクセス用フォルダ で紹介

C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\Microsoft\AddIns

改方式：Officeシステムアドインフォルダ で紹介

例) C:\Program Files\Microsoft Office 15\root\office15\Library など

理由は、旧方式だと、お使いの WindowsPC環境や、Excel のバージョンによって、AddIn したモジュールのリンクエラーが発生するが多かったためです。

AddIn モジュールのリンクエラーの問題は、ネットで調べてみると実は根が深い問題だそうで、以下のページなどで勉強させて頂きました。

文献01) http://addinbox.sakura.ne.jp/ktfunc_0300.htm AddinBox 角田桂一氏に感謝します。

管理者権限が使える自分用のPCをお使いの方は、この改方式にすることで、

- * 自分用のPCが複数台あっても(例: デスクトップ型とノート型を使用)
- * それらのPCにインストールされている MS-Office、-Excel のバージョンが違ってても
- * それらのPCをマルチユーザー環境(例: user1, user2 でサインイン)で使用している場合でも

リンクエラーが発生することなく使えるようになったと思います。

旧方式の時は、作成したエクセルファイルの場所を移動すると、リンクエラーが発生する場合があったかもしれません。改方式(システムアドインフォルダ)に常にリンクされるように変更することで、この種のリンクエラーは無くなっている筈です。

しかしながら、安定なこの改方式(システムアドインフォルダ使用) に変更すると不都合な方もいらっしゃるかもしれません。例えば次のような方々の場合です。

* 管理者権限を持たないユーザーの場合

この場合は、《方法2: 管理者権限を持っていない場合》で説明したように、旧方式で、ローミングアクセス用ホルダーにインストールして下さい。
 しかし、上記の様な 旧方式の不都合 が残りますので、あしからず。

* ネットワーク サーバー クライアント の環境で MS-Office を使っている場合

この場合については、どのように対処したらよいか、まだよい方策が見つかっておりません。
 ヒントとなる参考文献を次に紹介しますので、お手数ですが、ご自分で試してみてください。

文献02) http://addinbox.sakura.ne.jp/Excel_Tips21.htm AddinBox 角田桂一氏の記事

Tips21: Excelのリンクの管理と格納(ワークブックの移動で起きるリンクエラーの仕組み)